

令和5年8月31日

令和4年度 特別の教育課程の実施状況等について

静岡県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
静岡県立榛原高等学校	静岡県教育委員会	公立

1 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学 校 名	特別の教育課程の編成の方針等の公表 URL
静岡県立 榛原高等学校	<a href="http://www.edu.pref.shizuoka.jp/haibara-h/home.nsf/SearchMainView/94600564F321AFA749258995001CE8B3?OpenDocument">http://www.edu.pref.shizuoka.jp/haibara-h/home.nsf/ SearchMainView/94600564F321AFA749258995001CE8B3?OpenDocument</a>

2 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校 名	自己評価結果の公表 URL	学校関係者評価結果の公表 URL
静岡県立榛原高等学校	同上	同上

3 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- ・計画通り実施できている
- ・一部、計画通り実施できていない
- ・ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

※(1)で「一部、計画通り実施できていない」又は「ほとんど計画通り実施できていない」を選択した場合は、必ず記載する。

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- ・実施している
- ・実施していない

<特記事項>

【学校設定教科（科目）のプログラム開発、探究活動の実践及び評価方法についての研究】

今年度から、2年生を対象とした「地域創造探究Ⅱ、Ⅲ」、2年生選択者対象の「発展地域創造探究」（今年度は23人が選択）がスタートし、カリキュラム開発及び評価方法の

研究を行った。「地域創造探究Ⅱ」では、自分の志望分野や1年次の探究テーマ、地域や社会に関する諸課題などから自分の興味関心のある内容について各個人が設定したテーマで探究活動を行った。最初に、HAFプロジェクト推進委員である、静岡大学教育学部島田桂吾准教授にあらためて探究活動の意義や進め方について御指導いただき、探究活動を開始した。「地域創造探究Ⅰ」については、2年目となる今年度も、継続して年間指導計画やルーブリック表の見直し、評価方法についての検討を行った。

#### 【学校設定教科「地域創造探究」の実施】

##### ○地域の人材の活用した取組

- ・ファシリテーター「CLIP」による対話とグラフィック研修
- ・NPOによる探究ガイダンスとミニ探究活動
- ・牧之原市長講話
- ・行政職員、NPO法人、事業主などによるテーマ別講話

##### ○地域企業との連携

###### ・地域創造探究Ⅰ

各探究グループの企業訪問担当約40人が、「矢崎ものづくりセンター・静岡空港」コースと、「ヤナギハラメカックス・株式会社ヤマザキ」コースに分かれて各企業を訪問した。工場見学、事業内容の説明、企業理念、これからの企業のあり方などについて学んだ。

###### ・発展地域創造探究

矢崎ものづくりセンターを訪問し、工場見学や企業の海外進出について等を学んだ。また、海外勤務経験者などを学校に招き、企業のグローバル展開や求められる人材などについて、グループ別研修を行った。

## 4 実施の効果及び課題

### (1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

令和3年度から学校設定教科「地域創造探究」を設置することにより、体系的に活動を積み重ね、適切な評価を行うことによって「自ら課題を設定し、他者と協働してより良い解決に向け主体的に判断し、表現する力を身に付ける生徒」の育成に取り組んでいくことを実践し、一定の成果をあげることができたと考えている。地域の外部人材を活用した対話を重視した活動を通して、生徒たちは協議するスキルやコミュニケーション能力を身に付け、校内外でのさまざまな学習成果発表会等の経験を重ねることにより、思考力、表現力を高め、リーダーとしての資質を育成することができた。

### (2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

学校設定教科「地域創造探究」を通じて、「他者と協働的に学ぶ姿勢や批判的思考力を身に付けることができた」と答えた生徒の割合が94.3%、「生徒が身に付けることができた」と答えた教員の割合が100%であった。

夏期休業中に、1年生の各探究グループの「企業訪問担当」約40人が、「矢崎ものづくりセンター・静岡空港」コースと「ヤナギハラメカックス・株式会社ヤマザキ」コー

スに分かれて各企業を訪問した。工場見学や事業内容の説明などを受けた。

今年度から2年生の「地域創造探究Ⅱ」、2年普通科選択科目「発展地域創造探究」がスタートし、カリキュラム開発及び評価方法の検討を進めた。

## 5 課題の改善のための取組の方向性

今後の課題は、これらの生徒の学習活動をいかに継続させ、どのように深い学びに繋げていくかということにある。次年度以降、学校設定教科（地域創造探究）実施・推進組織の改善、学校設定科目（地域創造探究Ⅲ、発展地域創造）の設置及び評価方法の修正、学習プログラムの開発及び検証、パートナーシップで課題を解決するための課題発見と課題解決型学習の実践を計画的に実施していくことで、継続して成果をあげていきたい。